

週報

国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために



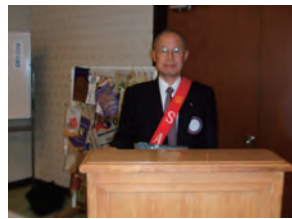
Vol.44 第2196回例会

2011.12.22

今年度会長テーマ

和の心 自然に学びて未来を創ろう

■司会：
野村(裕)例会運営委員



■点鐘：小町会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」



◆ソングリーダー：
野澤会員

■お客様紹介：
戸澤パスト会長



◆ゲスト：
東京立川こぶしRC
パストガバナー
新藤 信之 様



◆ゲスト：東京東久留米RC 島崎 孝 様

■会長報告

小町会長



先週はクリスマス家族親睦例会に多くの会員、家族の参加で久米川ボウルにて開催させて頂きました。昔とったきねづかでボーリングを披露してくれた人はもちろんですが、お子様、ご婦人の方も楽しんで頂けた事と思います。

懇親会でも楽しい談義があり、気持ちの良い汗ではなかったでしょうか。赤木クラブ管理委員長には家族の協力も得て、準備からご苦勞おかけしました。

さて、本日は上期の最終例会です。マラソンで言いますと折り返し地点が真近で、一休みして作戦を練って復路のスタートを切ろうとしている時です。本日の卓話に第2750地区東京立川こぶしロータリークラブ、パストガバナーの新藤信之様です。新年度早々に東京福生ロータリークラブで卓話をお聞きし、ロータリーに深い情熱をお持ちなら、是非、自クラブにてお話しを聴きたいと思っていました。

今回、暮れのご多用のところをお願いしましたが、快くお引き受け頂きありがとうございました。昨今、会員減少に歯止めが利かない現状に、良いヒントなりを教えて頂けるものと思います。日本人としての思いやり、絆がロータリーとしてのこれからのあり方を強固にしていきたいと思います。「今、ロータリーは・・・」と題してのお話しを楽しみに拝聴しています。

又、寒暖の差が激しい昨今です。皆様、どうぞお体にはご留意頂き穏やかな新年をお迎えください。そして、新年例会は元気で会いましょう。

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30

■例会場／八坂神社 社務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／赤木 盛一

■事務所／〒189-0013

東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL 042-393-7500 FAX 042-395-1166

■幹事報告

野村(高)幹事



- 東京北ロータリークラブ：
地区懇親ゴルフ大会決勝大会会計報告の受理
- 八坂神社：
元旦祭奉斎の案内の受理
2012年1月1日(日) 11:00～
於 八坂神社
- 東村山市教育委員会：
東村山市いのちとこころの教育問題「心豊かな子ども
の成長を願う市民の集い」開催に伴う後援名義使
用のお願いについて
2011年2月5日(日)
於 中央公民館ホール
- 東村山市青少対委員会：
新年会の案内の受理
2012年1月7日(土) 18:30～
於 義
- 東村山市防衛協会：
新年会の案内の受理
2012年1月21日(土) 15:00～
於 三光寿司
- 東村山市商工会：
東村山市商工会設立50周年新年賀詞交歓会の案内
の受理
2012年1月24日(火) 15:30～
於 東京みらい農業協同組合東村山支店2F
- 東村山市生き生きまちづくり：
第1回「まちの元気賞」表彰式並びに新年賀詞交歓会
の案内の受理
2012年2月4日(土) 17:00～
於 東村山駅西口ワンズタワー内サンパルネ
- 東村山青少会議所：
2012年度賀詞交換会の案内の受理
2012年1月14日(土) 18:30～
於 ベルホール
- 例会変更：
所沢中央ロータリークラブ 12月26日(月)→休会 他
- 回覧：ハイライトよねやま

■唱和

社員の福祉を図り幸福を願う事は職業奉仕だ。

■出席報告

相羽例会運営委員長



在籍会員数	出席	免除	欠席	出席率
33	24	0	7	77.42

- 前々回メイクアップ修正後前々会欠席：5名
- 前々回出席率メイクアップ修正後：83.87%
- 前々会メイクアップ者：
飯田会員：京都西RC
樺澤会員：地区委員会
村田会員：地域活動
嶋田会員：東大和RC
山本会員：東久留米RC

■ニコニコBOX 石山例会運営委員長



- ◆新藤様：本日は卓話でお世話になります。
- ◆小町会長：先日のクリスマス例会、楽しいひと時
でした。本年上期ご協力ありがとうございました。本日は新藤パストガバナー
卓話よろしくお願ひします。戸澤様
の家がめでたく竣工しました。
- ◆戸澤会員：新藤様本日の卓話よろしくお願ひしま
す。また、先週のクリスマス親睦ボー
リング大会では個人戦と団体戦ともに
優勝させて頂きました。
- ◆金子会員：ボウリング大会で本命戸澤さん優勝で
配当いただきました。赤木委員長さん
はじめお世話になりました。写真あり
がありがとうございました。
- ◆目時会員：新藤パストガバナー年末のお忙しい中、
卓話ありがとうございます。
- ◆山本会員：2週間も職業奉仕の為欠席してしまいま
した。久々に皆さんの顔を見れて嬉し
い限りです。写真ありがとうございます。
- ◆相羽会員：先日は卓話をさせて頂きありがとうござ
いました。本日は仕事の都合で早退さ
せて頂きます。
- ◆田中会員：お世話になります。空堀川清掃、上記
の金額が残りましたのでニコニコに入
れさせて頂きます。ご協力ありがとう
ございました。

- ◆野村幹事：本年最後の例会です。皆様ご苦勞様です。新藤様本日の卓話快く引き受けて頂き感謝しています。
- ◆嶋田会員：先日のクリスマス例会では孫達と楽しませて頂きました。3位になりお爺ちゃんの「面目」が保たれました。ありがとうございました。写真ありがとうございます。
- ◆中丸会員：新藤様、本日はようこそおいで下さいました。本日の卓話宜しくお祈いします。
- ◆島崎様：先日はクリスマス例会として久米川ボウルをご利用頂き誠にありがとうございました。今後ともよろしくお祈い致します。
- ◆戸澤会員、石山会員、野村(裕)会員：写真ありがとうございます。

本日のニコニコ合計： 45,854円
 累 計： 620,554円

■委員長報告

■村越会員増強副委員長



みなさん今日は。会員増強委員の方から中間報告をさせていただきます。

会員増強、私どもはちょうど始めて半年で折り返し時点に来ているわけでございます。その間色々とお話をさせていただきました。

私の方は、小笠原信子さんをお連れしたのですが、今ご主人のお母様が危篤でなかなか目が離せないのので来る事が出来ないということで、本人はとてやる気があります。70%は入るのではないかなと思っています。JCを6年やっていたので、やるからにはしっかりやりたいという本人のお話でした。ですから長い目で見てやって頂きたいなと思っています。その他、野澤先生と色々とお話を進めております。どうか皆様も会員増強を忘れないでお願いしたいと思います。

続きは野澤先生に代わりたいと思います。

■野澤会員増強委員長



過去に女性1名入会したのですが、あの時にもう一人必ず入会させますと約束しておきながら実現出来なかった我々のメンバーの責任がありますので、今回は小笠原信子さんが70%の可能性があるというこ

とで、小笠原さんにも必ずもう一人女性を入れるからと今アタックしております。

また、久米川で一休・十九家という居酒屋を多摩地区で15軒ぐらい拡大しております、そのオーナーの奥さんで、金子さんという方ですけれども、息子達に事業の方は移管しつつあるので、少し自分の時間が取れたらという事で、非常に興味を持って頂いております。皆様も是非久米川の一休と十九家に行つてカードをかざしてきて下さい。たくさんカードを見せるとまず入会間違いのないと思います。

それからもう一人、嶋田会員ないし野崎会員にご紹介頂きました、野口町の桜井正広さん。先日お伺いして参りました。仕事の方がまだ都内の方に出掛けていて、忙しくて地域の活動もしておりますので、すぐに返事は出来ないけれども、考えておきますということで、快い返事を頂きましたので、是非メンバーになるように努力をして参りたいと思います。あとは町田会員、歯医者さんはいかがでしょうか。年明けには一緒に訪問したいと思いますので、宜しくお願いします。以上でございます。

■卓話

■卓話者紹介： 目時プログラム委員長



■卓話者： 東京立川こぶしRC パストガバナー 新藤 信之 様



今、ロータリーは・・・

皆さんこんにちは。只今ご紹介いただきました、東京立川こぶしロータリークラブの新藤信之です。

先日、小町会長より直接お電話をいただき、今日の卓話の機会をいただきました。ちょうど創立45周年を迎える伝統のある貴クラブで、しかも私達のクラブとスポンサークラブを同じくする立川ロータリークラブのはるか年長のお兄さんクラブに卓話講師としてお招きいただき、大変光栄で、大変ご縁を感じております。

今、目時さんのお話にありましたように、貴クラブは阿部士良パストガバナーを輩出し、大変研究熱心で理論家の多いクラブと承っております。本日の卓話の表題を、「今、ロータリーは・・・」とさせていただきます。お聞き苦しい点や、言葉足らずで独断的な意見をお話するかもしれません。至らぬ点が多々あると存じますが、ご容赦いただき、最後までご寛容の程切にお願い申し上げます。

さて、本題に入らせていただきます。数年前から私は、日本のロータリーの会員減少傾向、その中で、特に一クラブ単位の会員数が極端に減ってきたことに対し、

大変な危機感を抱いておりました。いわゆる「クラブの小型化現象」に対する危機感です。今年のロータリーの友8月号にいくつかの会員数の現況に関する資料が掲載されておりました。それらも参考にし、いくつかのデータを使って、クラブの小型化の現状をお話することから始めたいと思います。

■スライド2：日本のクラブ小型現象

ロータリーの友8月号6ページ

これは、1990年から10年ごとに日本のクラブを人数規模別にグラフ化したものです。このグラフ左側に注目下さい。20名以下のクラブは、1990年に2%、それが10年後の2000年にはその倍の4%に、20年後の2010年には9倍の18%になっております。

20名以下のクラブを含め、40名以下のクラブが、2000年には1990年の約1.5倍に、2010年には約3倍となり、全体として62%になっております。如何に40名以下のクラブの小型化が進行しているか一目瞭然です。

このグラフは、会員構成比の推移であって、具体的に人数がどういう具合かはこれでは分かりませんが、この10年間に極端に小型化が進んだということが分かります。

■スライド3：全国的規模でのクラブ小型化現象

これは1年ズレますが、1989年から10年ごとの、私が2年前にガバナーを終えた時にまとめた表とグラフです。

この表の上段の20名以下のクラブは、1989年が42クラブ、1999年が74クラブ、2009年が378クラブで、特に1999年からの10年間で、304クラブ増えています。そして、20名以下を含めた40名以下のクラブは1999年からの10年間で、686クラブから1381クラブの2倍強に増えております。一方、60名以上のクラブは718クラブから297クラブに421クラブ減少しています。

日本のクラブ数は1989年から10年間で428クラブ増えたのに比べ、1999年からの10年間は25クラブ増えただけです。1989年の1857クラブから1999年の2285クラブとほとんど増えておりません。

以上のことから、ここ10年のクラブ小型化の実体は、一部の例外はあると思いますが、1つ1つのクラブがどんどん会員減少してきて、既存のクラブのほとんどが会員数を減らしてゆく中で、40名以下のクラブが増加してきているということが言えると思います。このことは、円グラフの②から③への構成比の変化でも見て取れます。更に言えば、2009年から10年の1年間で、全体のクラブ数は増えていないのに、20名以下のクラブ数は378から417と39クラブ、構成比で16%から18%に増えております。

このまま推移しますと、ここ2～3年で、日本のロータリークラブは5クラブに1つが20名以下のクラブになってしまうのは確実です。

■スライド4：地域別クラブ平均会員数

ロータリーの友8月号9ページ

これは、日本の地区別のクラブ平均会員数で、2011年4月現在のものです。東北の3地区は、今年4月現在、30名を切っています。愛知県は非常に優秀で60人となっております。どんどん小型化していることがお分かりかと思えます。

■スライド5：2010年6月末秋田と青森

これは極端な例でございますけれども、東北3地区の中でも、青森と秋田の両地区は、2010年6月末には、20名以下のクラブが半分以上になっております。

両地区とも、地区内クラブ数は33以上ですが、会員数は1200名以下です。後ほど、この33と1200の数字が問題となりますので覚えて頂きたいと思えます。

■スライド6：世界会員数の推進

さて、クラブの小型化とは別に、近年、注目すべき新たな現象が生じております。それは世界的規模での国、地域における会員数の2極化現象です。

世界の会員数は、第二次世界大戦中は約20万人でした。その後、10年ごとに20万人ずつ増え続け、1986年には100万人を突破し、そして10年後の1996年には120万人となり、その後は120万人を超えたところではほぼ横ばい状態を続けております。

■スライド7：日本の会員の推移

この世界の会員数が120万人を超えた1996年から1997年にかけて日本の会員数は13万人を超えピークを打ちました。日本の場合、ご存知のようにその後15年間減少の一途を辿り、2011年6月には9万人を切ってしまいました。

つまり、1996年以降、世界規模で、ほぼ会員数が横ばい傾向であるということは、その中身はどうなっているかということ、日本みたいにどんどん減っている国、地域があり、他方で会員数が増加している国、地域があることを示唆しております。まさにこの実態が世界的レベルでの会員数の2極化現象です。

具体的に申し上げますと、現在、アメリカ・カナダ・イギリス・日本は減少し続け、日本以外のアジア諸国、特にインド・韓国・フィリピンそしてラテンアメリカ・アフリカは増加しております。会員減少が進んでいる国や地域では、クラブの合併、地区の再編が問題となっており、会員数とクラブが増加し続けている国や地域では一つの地区を二つに、あるいは複数の地区をより多くの地区に分割するという地区再編成が進行しています。

■スライド8：アジア諸国の会員数の推移

これは一例ですが、2000年から2009年までの日本・インド・韓国等のアジア諸国の会員数の推移です。アジア諸国で、日本だけ減少しています。インドは10年間で約4万人増加しています。

■スライド9：一クラブの平均会員数

ロータリーの友8月号8ページ

これは、2011年5月集計の主な国と地域のクラブの平均会員数です。この中で特に、日本39人、アメリカ45人、イギリス30人、インド37人、この4カ国に注目して下さい。4年前の2007年はどうだったのでしょうか。

■スライド10：クラブの平均会員数

ロータリーの友8月号

これが2007年5月集計のクラブ平均会員数です。先ほどの4年前の2011年5月の集計と比較しますと、4年間で日本は43人から39人、アメリカは49人から45人、イギリスは34人から30人に減っております。逆にインドは34人から37人に増えております。

3～4人の減少で小さな数字だと思えますけれども、とんでもないことで、先程も表にありましたけれども、例えば4年間で4人減少した日本の場合は、クラブ数は現在2310クラブですので、4年で9000人強、約1万人減少していることとなります。

■スライド11：会員数の変化とRI戦略の推移

さて、世界と日本の会員数の推移について、その顕著な二つの特徴、つまり「クラブの小型化」と「会員数の2極化現象」を駆け足で見えてきました。

つい先日、国連の推計によると、世界の人口が70億人を超え、そして今後の人口の急激な増加が、食糧、資源特に水、そして環境分野に対して深刻な影響を及ぼすだろう、という報道がありました。

人口問題が、世界の政治、経済、文化等の上部構造に影響を及ぼすように、ロータリーにおける会員数の推移は、ロータリーのあり方に様々な影響を及ぼしてきました。

特に、1980年代以降の会員数の推移は、RI理事会に対して「国際規模での地区ないしクラブの管理機構の再編成」を促しました。やや乱暴ですが、具体的に言いますと、一つは、会員数が120万人となった1996年頃までの、会員増強とクラブ拡大との関連で、地区リーダーシッププラン(DLP)が考えられました。二つは、1996年以降の会員減少とクラブ小型化との関連での、クラブリーダーシッププラン(CLP)というものが考えられました。三つは、会員数の2極化が顕在化した2004年以降のクラブの合併、地区再編との関連で、RI戦略計画(Strategic Plan)として表れております。前は長期計画と言っておりましたが、今は改められて戦略計画と呼ぶようになりました。

■スライド12：長期計画委員会とDLP

会員数が100万人を超えた1986年の翌年、1987年に地区リーダーシップ・プランがRI理事会で検討されました。1987年から88年度のチャールス・ケラーRI会長は地区とクラブを強化するため「長期計画委員会」を設置し、地区管理機構の見直しに着手しました。これが、次のロイス・アビー会長、ヒュー・アーチャー会長に引継がれ、3年間の試験的プログラム期間を経て、RI理事会は1996年2月、地区リーダーシップ・プランを承認しました。これは現実には2002年7月に全ての地区に適用になったことは皆さんご存知だと思います。DLPは、ご存知のように、クラブの管理に関する任務を再分配することによって、ガバナーの責務と負担を軽減しようとするものでした。会員数が100万人を超えたことと、会員増強に対する至上命題が、激務になりがちなガバナーの任務と負担を見直し、ガバナー補佐を立てての地区とクラブの管理を強化することを主な目的に、世界的規模でのクラブ管理機構の再編成を促すことになったのは、ごく自然の流れであったと思います。

■スライド13：会員減少・クラブ小型化とCLP

地区とクラブを強化することが目的で、地区／クラブの管理機構を効率化しようと考えだされた地区リーダーシップ・プラン(DLP)が、その後会員減少とクラブ小型化という現実によって、修正を余儀なくされました。クラブの活性化のための方法論として考え出されたのがクラブリーダーシップ・プラン(CLP)でした。当初、理事会は「CLPはDLPの延長であり、あくまで弱小クラブや機能喪失クラブを活性化するための手立てである。」と言っております。CLPが単なるDLPの延長ではなく、これまで述べてきたように、無理な増強と拡大が、会員減少とクラブ小型化をもたらした、その対策としてCLPが考えだされたという「反省的総括」の視点が欠如したまま、現在も従来の増強・拡大路線を採用していることはある意味、クラブにとって不幸なことでございます。と同時にもう一つ、CLPの内容である「クラブ活性化」の方法論、特にプラン施行における10の実施段階「ベスト・プラクティス」の中にある、クラブ運営上の現実的な考え方がクラブに浸透しなかったこと、特に、この2つのことはクラブにとって不幸なことだったと思います。今なお、CLPが継子扱いされている理由です。

クラブに推奨するこのプランの10のベスト・プラクティスについて、今日は詳しく述べることはできませんが、その中の特に一番最初にあります「効果的なクラブとなるための活動計画の指標」を使用して、クラブの長期計画と年次目標を設定するという項目が、この頃、奉仕

の2世紀を迎えるRIがRI組織の将来の方向性を定めるための諸施策の基礎となる基本プランとして、現在RIがクラブに強く推奨している「戦略的計画／ストラテジックプラン」の立案に結びついてきます。

■スライド14：クラブ合併・地区再編と戦略計画

現在のRI戦略計画は、最初2004年6月の規定審議会で、RIの目的を改正し、特別委員会として長期計画委員会を設置し、ポリオの撲滅他、7つの優先項目と使命・ビジョン・中核となる価値観からなる長期計画として採用されました。この長期計画は2007年度より新たな内容となって、現在に継続していますが、その実施方法において、DLP、CLPと密接に関連しており、特に、「クラブのサポートと強化」を3つの優先項目の1つに掲げており、その中のいくつかの目標は内容的に同じものです。実は、注目すべきことは、後ほど問題となりますが、この長期計画と並行して、地区再編の計画が進行し始めていることでした。つまり、同じ2004年の規定審議会で、理事会提案である「地区の境界の変更手続」を改正し、クラブが30未満、会員数が1,000名未満の地区の境界を、一定の手続きを経て改正できるという制定案が採決されたことです。それまでは具体的な数字はなく「関係地区内のクラブの過半数の反対があれば、既存地区の境界も変更してはならない」とされていました。また、この地区の境界の変更手続きに加えて、最低40のクラブがあれば、地区に編成できるように要請する決議案、および、地区の合併を考慮するよう理事会に要請する決議案が採択されました。これら一連の立法案の採択の背景に「2極化現象」が顕在化していたことは言うまでもありません。そういった中でもいわゆる地区の再編というものが進んで来たわけでございます。

■スライド15：2013規定審議会

先日、同期のガバナーを通じ、黒田直前RI理事からの「昨年度RI理事会作成の2013年規定審議会に対する主な立法案」の資料を受け取りました。(皆様に配布されているものと思います。)それについて若干申し上げたいと思います。その中からさらに絞って、特に会員構成の変化によって、今RIが考えているクラブ強化・支援の考え方がどういうものなのかを見てみたいと思います。

まず最初に、近年の2極化現象との関連で、地区の標準化を目的として、RIは管理権限を強化する必要がでてきました。その一つが、この1)のRI理事会の地区合併再編のための権限強化です。これに至る経緯を簡単に述べますと、2001年の規定審議会で新クラブを作りやすくするように、クラブ区域限界を撤廃し、地区は単なるクラブの集合として、地区合併を容易に致しました。

先ほどお話ししたように、2004年の規定審議会で、地区の合併再編に関するRI理事会からのいくつかの提案により、周辺の外堀は埋められました。

今回、一地区33クラブ或いは1,200名の会員数の場合、RI理事会は強制的な権限を持つという案が、再度提案されることになりました。それまでは、地区の合併は所属クラブの賛成が絶対条件でしたが、それが覆ることになります。これにより、秋田と青森の地区は会員数が1,200名を切っておりますので、今後2年間の内に対策を講じなければ、2013年7月以降、何らかの形で合併することになると思います。

■スライド16：2013年規定審議会②

次はクラブ会員とRI会員のいわゆる会員身分に関する事項です。これも、如何に会員数を増やし、あるいはクラブを拡大するか、ということと無関係ではあり

ません。2001年の規定審議会で、クラブ会員身分を正会員と名誉会員の2種類に簡素化し、と同時に、一つの職業分類に5名までの正会員、50名以上の会員を有するクラブの場合は、会員数の10%まで同分類を承認することにしたのはご記憶のことと思います。これは一業種一会員の職業分類の原則を崩すものとして、当時話題となりました。

同じ規定審議会で重要なR I 会員条件に関する件が採決されております。それは、R I 定款第5条・第4節にR I 会員規定の例外を設ける件です。

R I 理事会は試験的プロジェクトとして、クラブの定款諸規定がR I 定款・細則に合致しないクラブでも加盟を承認できるというものです。この年、eクラブを試験的プロジェクトとして認めました。そして一定の試験的期間を経て、昨年2010年の規定審議会でeクラブが正式に承認されたことは記憶に新しいことです。

更に、今年に入り法人会員や準会員を認める4つの試験的プロジェクトがR I 理事会から提案されました。R I 理事会でこの件が審議され、決議されたのは昨年の11月の理事会です。一年も経たぬうちに、しかも2007年規定審議会では法人会員を認める件が圧倒的多数(152:314)で否決されたのにも関わらず、2013年の規定審議会にR I 理事会提案として準備されております。

■スライド17：2013年規定審議会③

今、2つの案にしぼり、紹介致しましたが、このほかにR I 理事会は皆さんのお手元に色々と書いておりますように、ロータリーの基本に関する、例会規定、出席規定、会員資格、職業分類など広範囲にわたる立法案を提出しようとしております。

時間の関係で、一つ一つ紹介できませんが、本日配布致しました黒田直前理事の資料を参考にし、これから2013年の規定審議会に向けてクラブの中で色々と検討して、ぜひ代議員の方に通してその意見を反映することが必要ではないかなと思います。

■スライド18：これからのロータリー

最後に、これからのロータリーについて、私見を述べさせていただきます。

私は先ほど、クラブの小型化がこのまま推移しますと、日本のロータリークラブの5つに1つは20名以下のクラブになると申しました。素晴らしい人との出会いがロータリーの良さの一つであるのに、会員数が減ることによってその機会が減りますし、会員数が少なければ資金的にも苦しくなり、地域のニーズに応える十分な奉仕活動も出来なくなります。

私は今、これまで通り、一つのクラブだけで親睦と奉仕が完結できるか、真剣に考え直さねばならない時期に来ていると思います。これからは、クラブを超えて、分区あるいは地区へ、場合によっては地区をも超えて、個人はもとより、いくつかのクラブが一緒になって親睦活動、奉仕活動をすることが必要になるかもしれません。この意味で、先ほど話にもありましたが、貴クラブが、清瀬、東大和、武蔵村山4クラブ合同で「空堀側清掃活動プロジェクト」を実施したと伺いました。素晴らしいことと思います。

もう一つ、クラブの2極化現象を背景に、これまで述べてきたように、R I 理事会は2013年の規定審議会に向けてロータリーの基本を覆すような立法案を準備しております。今や、昨年のR I 理事会の中には、「ロータリーは出席を重視する文化から、参加を重視する文化へと転換を図らなくてはならない。」と言い切る理事がおります。

ロータリーの例会は、職業人のExchange of Ideal「発想の交換」の場であり、「出席なくして親睦なし」親睦

なくして奉仕なし」と言われるように、例会の出席がすべての基礎となると考えますが、今日のロータリー活動は、職業人の定期的な集いである例会を軽視し、職業奉仕の理念の研削をないがしろにし、対外的な奉仕活動を重視してするように思います。いわゆるロータリーのボランティア団体化でございます。

ロータリーの奉仕理念とその実践こそ、他のボランティア団体と一線を画するロータリーの良さであり特徴です。このロータリーの奉仕理念と実践を現在に合うようにカスタマイズし、日本のロータリーは自らの独自性を発揮することが喫緊の課題となっていると思います。日本のロータリー全体としてやるべきことがあるかもしれませんが、まず、一つ一つのクラブがロータリーの奉仕理念を研鑽し、地域社会のニーズに応えた、しかもクラブの身の丈に応じた独自の長期計画と年次目標を立てて活動することから始めなければならないと思います。

また、一人一人のロータリアンは、自らを律し、変化する時代の要請に神経を研ぎ澄まし、敏感に反応しなければならないと思います。

この卓話を機会に、先ほど目時さんが紹介致しましたように、阿部士良パストガバナーのガバナー月信を読む機会を頂きました。大変そういう意味では、ロータリーの理論・実践に対して先見性あるご意見を拝読させて頂きました。

まとまりのある生き活きたクラブとなるためには、ロータリーの理念(Ideal of Service)を理解し、共有し、お互いロータリーライフ=親睦と奉仕活動=を楽しむながら、例会を通じて、職業人として自らを律し、互いに切磋琢磨することに尽きると思います。これこそが、阿部士良パストガバナーの当時のR I のテーマである「Enjoy Rotary」の真の意味だと思います。

今後の東村山R Cのさらなる発展と会員の皆様の活躍を祈念し卓話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

◆ロータリー歴

1981年9月	東京立川ロータリークラブ入会
1983年7月～1985年6月	地区青少年交換委員会委員2期
1986年2月	東京立川こぶしロータリークラブに移籍、初代幹事
1995年7月～1996年6月	東京立川こぶしロータリークラブ第10代会長
1997年7月～1998年6月	多摩中分区幹事
1998年7月～2000年6月	地区R財団補助金委員会委員長2期
2000年7月～2001年6月	多摩中グループ担当 ガバナー補佐
2001年7月～2002年6月	地区ロータリー財団委員長
2002年7月～2003年6月	東京立川こぶしロータリークラブ第17代会長
2005年7月～2006年6月	地区クラブ奉仕委員長 地区ロータリー情報委員長
2006年7月～2007年6月	地区研修委員会 研修リーダー補佐
2008年7月～2009年6月	2750地区 ガバナー
2010年7月～2011年6月	地区会員委員会委員長
2011年7月～	ロータリー文庫運営委員会委員長

◆経歴

1944年6月生まれ	67歳
1971年3月	中央大学大学院刑事法専攻 中退
1971年5月	(有)カネイ商会(不動産管理会社)設立 現在に至る

■点鐘：小町会長